

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1 創立100周年に向けた学校の価値の確認と記念事業の実施、およびその先に向けたビジョンの策定	(1)-1-1 創立100周年(2032年度)に向けた取組の検討において、南山男子部の創立からの歴史を顧み、地域の中で、ミッションスクールとして、南山学園の設置校としての男子部の役割や価値を再確認し、男子部の未来に向けた「ビジョン」を創立95周年の2027年度に示す。	【創立93年】 校内WGの設置、WGにて歴史の確認・価値の検討	【創立94年】 校内WGで答申のとりまとめ、周年行事企画への発展・移行、「男子部ビジョン(仮称)」の素地づくり	【創立95年】 100周年に向けた「男子部ビジョン」の策定・公表	【創立96年】	【創立97年】	「将来構想委員会」を再構築し、創立100周年に向けた取組の第1歩として、これまでの周年行事の資料の確認を行い、本校の歩みを確認する。			
		(1)-1-2 学園創立100周年は男子部創立100周年でもあり、事業を学園と協働しながら、周年行事を2027年度以降順次検討し、計画を進める。2027年度中学入学生が2032年度度高3となる、2027年度からアニバーサリープロジェクトを始められるようにする。		(1)-1-1を踏まえアニバーサリープロジェクト(広報)検討	☆2032年度高3となる生徒入学・広報プロジェクト開始 ・周年企画検討			－			
	(1)-2 選ばれる男子校であるための教育の深化	(1)-2-1 2030年度末までに、男女別学で教育を行うとした創立時からの理念や考え方を再確認し、「男女別学教育の良さ」を再度構成員で認識し、教育活動に反映していく。広く社会に共感・理解いただきながら「選ばれる男子校」となることを目指す。	100周年WGにおいて、創立時の理念等と男女別学の意図の再確認を行う	構成員での共有と 2027年度以降広報計画への反映検討	定期的な再確認と、カリキュラム等への反映、点検・改善			「将来構想委員会」を再構築し、創立100周年に向けた取組の第1歩として、これまでの周年行事の資料の確認を行い、本校の歩みを確認する中で、設立時の理念や男女別学の意図の再確認を行う。			
		(1)-2-2 2030年度末までに、南山学園の教育モットーである『人間の尊厳のために』、校訓『高い人格、広い教養、強い責任感』の再認識を行い、男子部の特色を再評価するとともに、男子部の特色が教育モットーおよび校訓の実現に収れんされていくようカリキュラムや行事等の改善をめざす。	校内WGの設置、WGにてスクールミッション・ポリシーの確認・学校評価による教育反映の点検	前年度点検結果による改善と年度ごとの点検の継続				各種学校活動について自己点検・評価を行う校内組織を定め、自己点検・評価が機能する組織体制を構築する。			
		(2)教育・研究	(2)-1 安心・安全な学校および教育環境の構築	(2)-1-1 発生が予測されている南海トラフ地震や近年の異常気象その他自然災害に対する備えとして、BCPの作成および学校安全計画や危機管理マニュアルの毎年の整備・更新、必要な設備等の充実を通じて、防災・危機管理体制について点検と改善を重ねていく。	BCP・学校安全計画・危機管理マニュアルの点検と改善・充実 防災につながる施設設備の点検と更新				2025年3月に作成したBCPおよび改正危機管理マニュアルを校内危機管理委員会において点検・評価し、現実に運用できるものになるよう改善を進める。 また、防災にかかる設備について法令上の点検だけでなく、操作方法の確認等を進める。		
	(2)1-2 中高生を取り巻くさまざまなトラブル（SNS・いじめ・熱中症やケガ等）に対して適応し、社会の一員としての意識を高めることができるよう、安全や公共マナーに関する教育に積極的に取り組むとともに、トラブル発生時の学校側の対応についても毎年点検し、さらに充実させていく。			各種安全教育の実施と充実 学校安全計画・危機管理マニュアルの点検と改善・充実・教職員研修の実施					中1を対象としたネットモラル研修および自転車交通安全研修、高校生においては体育の授業の一環としてAED取扱講習を継続して実施する。 また、校内危機管理委員会を中心に、各種計画・マニュアルの点検と改善を実施する。		
(2)-1-3 学校の防犯・不審者対策の強化のため、セキュリティにおけるハード面の対応強化および講習会や研修を通じた構成員の防犯意識向上によるソフト面の対応強化を図る。	防犯・不審者対策の取組について点検し、改善事項を抽出する		改善事項に順次対応・予算確保				警察や警備業者等の協力も得ながら、学校に求められる必要な不審者対策への対応状況を点検・確認し、課題を抽出する。				
(2)-2 さまざまな教育連携による「南山男子部だからできる教育」の実践	(2)-2-1 南山大学との教育連携について、現在の連携をさらに改善・深化させ、学園内連携推進協議会や高大協議会を軸に、南山大学との新しい連携取組を充実させる。	各種会議体や南山大学との連携協議の場をもち、取組の企画・推進を行う					南山大学との新たな連携事業を2025年度中に最低1件取組開始できるよう、検討する。				

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
		(2)-2-2 女子部を含めた学園内中学校・高等学校との教育連携について、学園小中高連絡協議会や学園内連携推進協議会等を軸に、教職員・生徒間での人的交流、正課・課外活動での連携を増加・充実を推進する。	各種会議体や高中校との連携協議の場をもち、取組の企画・推進を行う					学園内中学校・高等学校との教育連携の可能性について、関係する学園所管会議体を軸に、他単位校と意見交換を行い、可能性を探る。			
		(2)-2-3 他のカトリック中学・高等学校や現在連携協定を結んでいる上智大学との連携を強化し、ミッションスクールの特色を活かした教育連携を検討・企画する。	他カトリック学校・大学との連携の可能性について調査	他カトリック学校・大学との連携について関連校との調整	具体的締結に向けた調整・対応			愛知県私学協会や中部地区カトリック学校連盟の組織を活かした、カトリック校間の教職員・事務職員交流の機会や、上智大学での新たなプログラム開発の可能性について、関係各校と相談・企画を行う。			
	(2)-3 ダイバーシティ＆インクルージョンの教育への反映と実践	(2)-3-1 近年入学が増えてきている外国にルーツを持つ生徒や帰国生徒の受入への対応を含めた編入学・転入学のあり方について、2030年度までに検討を進める。	ニーズと対応可能性について検討を行う。		対応の方向性を出す。	方向性に基づき制度設計について議論を深める		執行部および教務部を中心に、外国にルーツを持つ生徒や帰国生徒の受け入れにおける課題を検討し、取りまとめる。			
		(2)-3-2 障がいのある生徒と障がいのない生徒が共に学ぶインクルーシブな教育について、これまでの受入実績と合理的配慮の義務化を踏まえ、男子部での可能な制度と対応のあり方について、2030年度までに検討を進める。	これまでの障がいのある生徒の受け入れ実績からの課題を抽出し、対応できていること、対応準備が必要なことを洗い出す。		対応の方向性を出す。	方向性に基づき制度設計について議論を深める		執行部および教務部を中心に、障がいのある生徒のこれまでの受け入れ実績や社会から求められる事項を確認し、本校での受け入れにおける課題を検討し、取りまとめる。			
	(2)-4 「南山の国際性」の継承と変革	(2)-4-1 海外留学および外国人と直接触れ合う機会の提供を強化するため、神言会設置中等教育機関を含めた海外提携校・協定校の開発について2032年の創立100周年に向けて検討を進める。	協定を必要とするプログラムを検討し、どのような協定先が望ましいか検討する。		協定先の選定・開発の進め方を調査し、可能であれば交渉を進める			国際交流委員会を中心に、男子部における国際性の涵養・向上に必要な取組について検討したうえで、海外提携校・協定校の締結を行った際の効果についても検討し、方向性を見出す。			
		(2)-4-2 外国語を用いたカリキュラムや校内プログラムについて、現在の取り組みを強化することおよび英語以外の言語について取り組むことの可能性について検討する。	現状のプログラムをレビューし、強味・弱みを明確にする。		より強化していく方向性について、具体的な対応を検討する。			ネイティブ教員による少人数クラスでの英会話の授業、グローバル・スタディ・プログラム、英語部、イタリアキリスト教文化研修（高校）、オーストラリア研修（高1）、ニュージーランドターム研修（中3）の活動といった現在の外国語関連プログラムを評価・検討し、強み・弱みを明らかにする。			
(3)施設・設備	(3)-1 アクティブラーニングを推進する環境の整備	(3)-1-1 探究学習の実践やPC1人1台体制を考慮して、図書館・自習室・PC教室の既存施設の将来計画およびラーニングコモンズの新設等、教室以外の「学びの場」の有機的な連携を計画し、2032年の100周年にむけて再構築する。	アクティブラーニング推進に向けた施設設備のあり方を検討	既存施設の改修や施設整備に向けた段階的整備計画の決定	2032年度完成に向けた段階的整備（5年計画）			執行部および教務部において、アクティブラーニング推進に向け、どのような「学びの空間」としたらよいか、業者提案も含め、可能性について検討を行う。			
	(3)-2 体育施設の熱中症対策の推進	(3)-2-1 体育館への2025年度中の空調設備設置を含め、屋内施設の冷房設置や屋外施設への日よけ設置等、夏季の高温対策・熱中症防止対策を継続的に進める。	体育館への空調設備設置	屋外体育施設への対策検討・実施				県補助金を活用し、体育館に空調設備（エアコン）を設置する事業を実施する。			
	(3)-3 校舎メンテナンスの実施による校舎の維持と高寿命化	(3)-3-1 現校舎の建築から10年経過する2027年度・2028年度を中心とした校舎維持および高寿命化に向けたメンテナンス計画と実施を進める。	メンテナンス計画の精査		メンテナンス①（屋根・外部修繕）	メンテナンス②（屋根・外部修繕）	メンテナンス③（屋根・外部修繕）	事務室を中心に、学園の定める施設設備ライフサイクルを基本に、現状設備の点検を含め、今後の更新計画をまとめる。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(4)社会・地域貢献	(4)-1 教育活動におけるSDGsの達成に向けた取組の強化と実践	(4)-1-1 教育活動の中での関わるができる項目について検討し、可能などころから取り組んでいくことで、教育を通じて社会課題の解決に協力する。	SDGsを意識した教育活動の展開と評価、改善の実施					SDGsを意識した教育活動について、各教科の協力を得ながら新規に3件程度の取組を進める。			
		(4)-1-2 生徒会による「スプリングカーニバル」や奇術部による出張演技等、児童福祉施設やひとり親家庭、養護施設等で生活するさまざまな子どもたちと、男子部ができるかわりを持ち、「人間の尊厳」を大切にし、実践する機会を継続的に持つ。 (目標10：人や国の不平等をなくそう)	各種施設との連携、生徒の派遣・参加を通じた交流の場の設定と継続					生徒会によるスプリングカーニバル、奇術部を中心とした、ひとり親家庭や児童養護施設の児童を招いたイベントを継続して実施する。			
		(4)-1-3 部活動や近隣他校生徒との協働による「地域清掃」を継続し、また八事興正寺やいりなか商店街のイベントへの男子部生徒の参加などを通じて、地域とのつながりを持ち、まちづくりに貢献する。 (目標11：住み続けられるまちづくりを)	「地域清掃」の継続と関わるのできる地域行事等への参画					女子部および中京大学附属中京高等学校と連携し、合同地域清掃等の再開等地域貢献に向けた協議を行い、実施する。			
	(4)-2 「地域に愛され、地域に育ててもらおう私立学校」となるために	(4)-2-1 南山高中を応援する近隣に住む方々により立ち上げられた「友の会」との連携を強め、奨学金や財政的援助にとられない、地域の声を反映し、応援いただける学校づくりを進める。	友の会75周年を契機とした、学校との連携強化の検討					本校の活動に理解・共感をいただく地域や一般の方による支援組織である、「南山中学高校友の会」が創立75周年を迎える。友の会の記念事業への協力を通じて、学校と友の会との連携強化の機会とする。			
		(4)-2-2 これまであまり関わりを持つことができていない、地域自治会等との連携・情報共有を進め、学校活動への理解を求めるとともに「地域の中での南山男子部」を意識して地域活動に取り組むのできる素地を作る。	地域自治会等との顔合わせ・参画可否の調整・打診		学校運営への地域自治会とのかわりを増やす		教育活動と地域とのかわりを増やす	学園の地域との窓口部署にも協力いただき、地域自治会についての情報収集を行い、役員との顔合わせを行うことを目指す。			
(5)財政計画	(5)-1 「財政に係る中長期目標」の実現に向けて	(5)-1-1 「南山学園財政に係る中長期目標」の実現に向けて、実現可能性のある収入増・支出減の施策を検討し実行するとともに、校舎建築借入金返済後の財政復旧計画の立案を行う。	校内での目標実現施策および財政復旧計画の検討、学園財務部署との調整					支出減・収入増につながる取り組みを継続的に行う。また、校舎建築借入金返済後の財政復旧計画について財務課とも調整し、検討を開始する。			
	(5)-2 収入増への取組	(5)-2-1 男子部の財政改善のためには「収入増」を図ることが必要であり、寄附金収入を増加させる取組を進める。男子部教育をより社会に理解してもらうことでファンを増やしたり、常盤会との連携して寄付者への特典を設ける等従来の枠を超えた「支援の輪」を広げる取り組みを立案・実行する。	寄附金増加・収入増加に向けた取り組みを学園とともに検討。	特典付寄附についての検討と調整 (学園・常盤会・外部組織等)	特典付寄附について実行	特典付寄附について評価・改善		クレジットカード決済による寄附が可能なことの広報強化に着手する。その1つの方法としてパンフレット作成を行う。			
		(5)-2-2 補助金について詳細な調査を行い、獲得できるものは獲得し、財政の一助とする。	補助金獲得の現状分析、追加獲得の可能性の調査と評価	追加獲得できる補助金を獲得した事業実施、評価、更なる改善				昨年度の経常費補助金の分析を踏まえ、経常費補助金獲得について戦略的に取り組み、収入増を目指す。また、体育館への冷房設置事業について補助金を活用して実負担の軽減を図る。			
		(5)-2-3 保護者負担を強いる授業料改定については、安易に行うべきものではないが、財政改善方策の1つとして排除するものではなく、継続してその必要について検討を行う。	社会情勢や財政状況を踏まえた授業料改定の可能性の検討					2027年度の入学検定料、入学金、授業料等納入金の改定の是非について、他校の動向や社会情勢を踏まえながら検討を行う。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
	(5)-3 ペーパーレス化の更なる推進	(5)-3-1 ICT化に伴い活用できるICT活用は活用し、可能なものについてのペーパーレス化を推進し、校内における年間紙使用枚数（購入枚数）を毎年1割ずつ削減していく。	年間使用枚数の前年度1割減を進めていく					→	中学3学年・高校2学年が1人1台端末を持つことになったことを活用したペーパーレス化を進める。特にテスト返却等について対応を検討する。		
	(5)-4 広報活動の推進による生徒数の安定的な確保	(5)-4-1 中学入試を目的とした広報活動について、保護者や小学生のニーズにあったものを常に模索し、単年度受験者数目標800名および入学定員の継続的確保を行う。	受験者数および入学者数の確保に向けた取組の実施	→ 前年度事業の評価・改善を踏まえた広報活動により、受験者数・入学者数を確保				→	2025年度入試では過去最高の902名の志願者を獲得した。引き続き説明会・塾訪問活動を継続するとともに、Webページやパンフレットでの「受験を検討する保護者のかゆい所に手が届く学校情報の提供」の工夫を強化し、志願者確保に向けて取り組む。		
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 教員の教育力・指導力向上	(6)-1-1 校内教員研修を毎年1回、教育や生徒対応等さまざまなテーマで実施する。	校内教員研修の企画と実施					→	2025年度も救命救急講習やエビベン使用方法等「生徒の命を守る」研修を予定し、安心安全な学習環境維持の一助とする。		
		(6)-1-2 教員間での授業公開を推進し、お互いに授業を見合うことでICTの活用能力や教科指導力の向上に資する仕組みを整える。	校内授業公開の仕組みについて検討	→ 試験の実施	→ 評価・改善・実施			→	校内授業公開について、どのように取り組むことができるか、執行部を中心に検討を行う。		
		(6)-1-3 男子部での教育実践の成果を校外にも発信するため研究紀要『FORUM』の発刊を復活させ、隔年を目安に実施する。	研究実施	→ 成果とりまとめ 紀要発刊	→ 研究実施	→ 成果とりまとめ 紀要発刊	→ 研究実施	→	日常的に行っている教員による授業研究を継続する。次年度に研究成果を紀要として取りまとめられるようにする。		
		(6)-1-4 愛知県私学協会による教科部会活動をはじめ外部研修への参加を奨励し、また指導力向上に関連する資格取得の支援等の仕組みを構築する。	研修の紹介と奨励、資格取得支援の仕組み検討	→	→ 研修の紹介と奨励、資格取得支援の実施			→	さまざまな研修の機会に教員を参加させ、また英語科教員の指導力向上の方策として検定試験の受験を奨励する。		
	(6)-2 「ミッションスクールであること」の理解と実践	(6)-2-1 新任用研修の機会だけでなく、カトリック精神やミッションスクールの目的・目指す方向性を定期的に再確認できる機会としての校内教職員研修の機会を設け、実施する。	研修機会について検討し、実施に向けた準備を行う。	→	→ 研修の実施			→	執行部および宗教科を中心に、カトリック精神にかかる校内教職員研修の機会について検討を行う。		
		(6)-2-2 日本カトリック小中高連盟や中部地区カトリック学校連盟等が主催する外部研修へ教職員を派遣し、構成員のカトリックやミッションスクールの役割についての理解を深める。	カトリック関連外部研修への派遣の推進					→	6/26-27第35回全国カトリック学校校長・教頭合同研修会(兵庫)、8/20中部地区カトリック学校連盟教育研修会に参加者を派遣する。また、中部地区カトリック学校連盟の会長校としての責務を果たす(2024年度・2025年度)。		
		(6)-2-3 カトリックと本校教育活動の関連について理解を在学生保護者に深めてもらうために、育友会主催「春の講演会」へのカトリック関連講師の選定への協力を継続して行う。	講師選定への協力と講演会の実施支援					→	2025年度は、カトリック名古屋教区・松浦悟郎司教の講演を依頼し、開催準備を進めている。2026年度の講師選定については女子部と協力して12月頃行い、ミッションスクールである南山の教育について保護者への浸透と理解を深めることに協力する。		
	(6)-3 時代に合わせた教員の働き方の見直しと実践	(6)-3-1 教員の働き方に関連して、部活動や試合付き添い等を含めた土日の学校活動のあり方について、労働環境や学校に求められる役割に関する社会情勢や学園内での議論等を踏まえ、再検討を行い、必要な見直しを行う。	学校活動の見直しに伴う勤務形態の見直しと改善					→	2025年度は執行部を中心に、部活動運営を含めた現状の学校活動と教職員の勤務体系における課題を洗い出す。法令に基づく労務対応については学園と協働して進める。		

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-2 南山高等・中学校（男子部）》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
		(6)-3-2 学校運営を安定的・永続的に行うため、年齢構成や経験年数を基準とした教員採用計画の実施および中堅教員の主任・部長職への登用を積極的に進める。	教員採用計画に基づく採用と教員の育成					→教員年齢構成および教科配置を参考に、教員採用計画や役職への登用について計画的に行えるよう体制を整備する。			
	(6)-4 教職協働の実現に向けた取組の実施	(6)-4-1 学校に求められている役割の増加により教員・事務職員の負担が近年高まっていることから、教員業務の一部を「支援員」や「助手」に移行したり、教員・事務間業務や人員配置の見直しを行ったりして、教職協働して1人当たりの業務負担を平準化・軽減することを学園の協力も得て実施する。	支援員・助手についての活用可能性の検討および教職業務分担の見直し					→現在助手・支援員は、理科実験助手とICT支援員を配置しているが、その他の助手・支援員の活用の可能性、教員と事務職員の業務連携の見直しについて、執行部・部長を中心に年間を通じて検討する。			

*1) 評価欄は、○（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため○（1点）、△（0.5点）、×（0点）、-（0点）で算出する。